

## 吉田松陰宿泊の地 山田文英邸跡(山田家)

泉南市岡田

- ▶ 嘉永6年(1853)1月26日、吉田松陰は長州萩を出発。萩から江戸に至るまでの旅を日記「発丑遊歴日録」として書き残しました。  
海路で大坂に着いたのは同年2月10日でした。約3ヶ月間、大坂・五條・富田林・岸和田・泉州各所の儒者を訪ねまわりました。  
同年2月26日泉州岡田浦から山田文英が、岸和田滞在中の松陰を訪ね会談しました。  
3月3日に岸和田を発った松陰は、3月5日、泉州岡田浦の山田文英の邸を訪ねました。  
5日から17日の13日間、山田家に滞在しました。



岡田浦の山田文英邸跡(山田家)

現在は、当時の面影もありませんが、子孫の方が山田文英邸跡地に居住されています。松陰は「発丑遊歴日録」に山田文英のことを次のように記載しています。

二月二十六日 (前文省略)

山田文英なる者は雲(州)※現在の島根県の人なり。泉(州)の岡田に來り醫(医)業とす、亦來りて一宿す。

三月五日

熊取を發し、岡田の山田文英の家に至る。行程二里。岡田は一漁村なり。文英の門生に西川俊齋と云うものあり、紀の人なり。

## 吉田松陰宿泊の地 中左近邸跡(中家)

泉南郡熊取町五門西1-11-18

- ▶ 嘉永6年(1853)、3月3日岸和田を發ち熊取の中左近を訪ねました。中家には3月3日から5日の3日間滞在しています。松陰は中左近から清国で起こった太平天国の乱について詳しく聴きました。また、松陰滞在中に、熊取の医師である佐海祐齋(さうみゆうさい)が中家を訪れ、松陰と会談し漢詩の交換をおこなっています。中家は、岸和田藩の七人庄屋の筆頭を務めた家柄です。

中左近(中瑞雲齋)

松陰の來訪から10年後、熊取を飛び出して京都で尊王攘夷運動に奔走しました。平安時代に起こった保元の乱で崇徳天皇が讃岐に流されたことに対し、手厚く祀りなおし、天皇政權の挽回を強く主張しました。(明治元年(1868)に実現しています。)

横井小楠暗殺事件に関係し、明治4年(1871)内乱陰謀罪で獄死しています。

中家住宅は、昭和39年(1964)5月29日に重要文化財に指定されました。

主屋は入母屋造り、茅葺き・妻入りで、周囲に本瓦葺の庇をめぐらしています。

中家住宅は、現在でも広い敷地を占めますが、江戸時代後期の古い図によると、今よりもはるかに大きく、主屋の東側には別棟の式台玄関のつく客殿(書院)がありました。



重要文化財に指定されている中左近邸(中家)

## 23 橋本宗吉電気実験の地

泉南郡熊取町五門西1-11-18

- ▶ 中家住宅の主屋西側に樹齢600年の松の木がありますが、大坂蘭学の開祖として知られる橋本宗吉(曇斎)が中家の協力でこの松の木を使って電気実験を行いました。実験内容は、避雷針の発明につながったフランクリンの実験を自ら試してみたものだったようです。松の枝に取り付けられた桶から針金を下まで垂らし、その下で一人がそれを持ちます。別の人がその人と手をつなぎます。雷雲が来て空中の電気を捉えた瞬間、針を持っていない人の指に火花が散りました。



実験に使われた松と碑



大手電機メーカー本社の庭にある橋本宗吉(曇斎)像

## 24 旧紀州街道(岸和田本町)

岸和田市本町

- ▶ 岸和田城の西側に紀州街道が通っていました。紀州徳川家の参勤交代もこの道を通りました。現在も古い家が立ち並んでいます。

